

お大師山八十八ヶ所巡り

「お大師山」または「観音山」ともいわれるこの山は、八十八体の仏像が安置され、かつて喜茂別弘法教会（本尊・弘法大師）のあった所です。喜茂別弘法教会は、昭和初期に森芳太郎（真狩村）が霊示を受けて弘法大師信仰を始め、喜茂別神社の裏手崖の下にお堂を構え、その後現在の場所へ小祈祷所を設立したのが始まりです。（昭和3～4年と推測される）

昭和5年（1930年）森芳太郎氏・川口貞吉氏・大島実三郎氏・高野留吉氏・斉藤忠郎氏・大野兼房氏らが発起人となり、お大師山の丘に喜茂別村内外から寄進された石仏八十八体が建立されました。石材は、字伏見の笹岡邦太郎氏の土地から産出されたもので、石工は森熊市氏（森芳太郎氏の弟）・綾部辰雄氏・向井清吉氏の三名で、石の片面に浮き彫りにした薬師如来像・千手観音像・十一面観音像・阿弥陀如来像などが多く見られます。八十八体の石仏建立の理由は四国八十八ヶ所へ行けなくとも、このお大師山を巡礼参拝することにより、御利益を受けると信じていたからでしょう。

八十八体の石仏は下記のとおりです。

記

やくしによらい 薬師如来	23体	せんじゅかんのん 千手観音	13体
じゅういちめんかんぜおん 十一面観世音	11体	あみだによらい 阿弥陀如来	10体
だいにちによらい 大日如来	6体	しゃかによらい じぞうぼさつ 釈迦如来・地藏菩薩	各5体
かんぜおんぼさつ 観世音菩薩	4体	ふどうみょうおう こくうぞうぼさつ 不動明王・虚空蔵菩薩	各3体
もんじゅぼさつ みろくぼさつ びしゃもんでん ばとうかんのん だいつうちしょうぶつ 文殊菩薩・弥勒菩薩・毘沙門天・馬頭観音・大通智勝佛			各1体
その他入口両脇に	6体	りゅうおうぞう しょうとくたいしぞう 龍王像・聖徳太子像	各1体